

今日は淀中学校の「いじめについて考える日」です。少なくとも年に1回、すべての大阪市立の小中学校でおこなうことになっている取り組みです。正確には「いじめといのちについて考える日」ですが、ピントがぼやけないように「いじめ」にしばって話をします。それは結果的に「いのち」を大切にすることにつながるはずです。校長先生の考えを皆さんに伝えたいと思います。

今日の校長先生の話の目的・目標は、「淀中学校を『いじめ』のない学校にする」ことです。

その目的・目標を果たすために、皆さんに伝え、理解して確認してほしい要点を、3つ話します。

●要点1：「いじめ」とは何か

「(LINEなどのSNSを含め)人に嫌なことを言ったり、人に嫌なことをしたりして、攻撃すること」---これが「いじめ」だと校長先生は考えています。多数で1人を攻撃するだけではなく、1人で1人を攻撃しても、あるいは、まったく自分に攻撃する気がなかったとしても、嫌なことを言った・嫌なことをした事実があり、された人が苦痛を感じれば、それは「いじめ」です。

●要点2：「いじめ」について全員で共有したい考え

「いじめ」はどのような理由があっても許されない。この考えを全員で共有したいです。

怖い言葉をつかいますが、人を殺すことがどのような理由があっても許されないように、人のものを盗むことがどのような理由があっても許されないように。同じように、「いじめ」はどのような理由があっても許されない。この考えを全員で共有したいです。

●要点3：その考えの理由

「いじめ」は、人の安全と安心を奪うからです。場合によっては人の命さえ奪うからです。人の安全と安心、さらに命を奪う権利なんて誰にもありませんし、そのようなことが許される理由なんてどこにもありません。

以上、「淀中学校を『いじめ』のない学校にする」という目的・目標を果たすために、皆さんに伝え、理解して確認してほしい要点を3つ話しました。初めて聞く内容ではなく、すでに皆さんのほとんどが理解している内容だったのではないのでしょうか。

ところが---実際には「いじめ」はなかなか無くなりません。なぜでしょう？

それは、人間の心の中に、人をいじめることで優越感（自分のほうが上という気持ち）を感じる、いじめる者どうして仲間意識を感じる、そんな悪い心が潜んでいるからだと考えています。

人をいじめることで優越感や仲間意識を感じるなんて、悪い心であるだけではなく、醜くて恥ずかしい心だと思います。だから、そんな心が表れてこないように、理性で抑える必要があります。

さいごに別の言い方もしておきたいと思います。

淀中学校を「優しい気持ち」があらわれる学校にしてください。みんなに「優しい人」でいてほしいです。「優しさ」というのは、人のことを理解して大切にできることです。そんな気持ちがあれば、その正反対の「いじめ」なんておこることはないと思います。これは校長先生のいつも変わらない思いです。